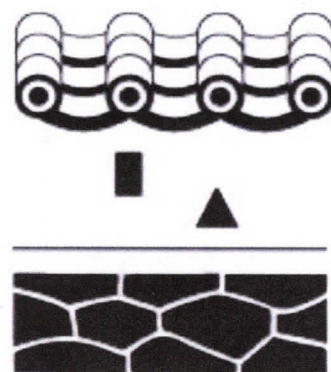


OGO 第80号 小田原ガイド協会だより

令和元年6月1日発行（夏号・季刊）

NPO 法人 小田原ガイド協会 〒250-0014 小田原市城内3-22
TEL 0465-22-8800 FAX 0465-22-8814
ホームページ URL <http://www.odawara-gaido.com>



令和元年度を迎えて

小田原ガイド協会会長

堀池 衡太郎

早いもので、会長職を仰せつかって四年目になりました。観光都市宣言をしている小田原のギアが一段ステップアップする時で、元号も平成から令和となり、新しい気持ちで今年度の事業に向かいたいと思います。

(一) 早川観光案内所は前回OGO第七九号に述べましたので現在決定し活動していることお知らせします。下期開設に向けて具体的運営方法は八月までに、理事会の審議を経て決定します。初年度の稼働日数は五八日になりました。令和二年は最低一一〇日の稼働規模になり、今年度はその礎的な活動が出来ればと考えています。様々な活動を柔軟性のある思考を持って、「恐れず考える前にやって見る」の心境で活動をしていただければ幸いです。初

年度目標は観光案内所機能を満たすことに重点を置いて下さい。

(二) 歴史的風致維持整備保全活用事業の参入ですが、先輩の長年の強い要望でもありガイド協会が「さすが小田原ガイド協会」と評価していただけるような事業にしたいと考えています。複数年度の事業に向けて「レストスペース（公園的機能を有した場所）」の管理・維持やガイドスタイルを構築するために、平日も非日常が味わえる活動ができれば理想です。理想的な活動ができ、継承可能な路線が見えるようであれば、今年度からの参入を意識しています。

(三) 観光客の回遊性を積極的に向き合う方法として、ガイド協会の強力な推進力である「回遊バス・レンタサイクル」の動力を積極的に使用することです。回遊バスを使ったガイド企画、こちらは回遊バス運営委員会の主催で企画・号外ガイドがない空白の七月・八月に

向けて稼働を始めようとしています。

レンタサイクルを使ったガイド企画はレンタサイクル委員会が日程を調整しコース作成、試走を始めます。安全を第一に考え、都市部まちづくり交通課に自転車通行のピクトグラムを回遊する道に設営を依頼しています。バラエティー豊かな企画を創出する予定です。積極的回遊性の典型とした着地型観光になると考えます。

最後になりましたが、大病を経験した私は、体力的に職に耐えられないと思っていました。倒れずガイド協会活動を運営することができたことは、先輩諸氏や同僚それと現在、私の周りで細かく心使いをしていただき、補佐していただいている方々のおかげと感謝をしていることをこの紙面を借りて御礼を申し上げます。

さくテ、激動の十連休も終わったことです。クラッチを踏込み、ギアを入れてユックリと走り始めますか。

シリーズ二宮尊徳③ 藩主大久保忠真と金次郎

高杉 昭廣

大久保忠真（藩主期間一七九六〜一八三七）は寛政八年（一七九六）小田原藩主となり、幕府の寺社奉行、大坂城代、京都所司代、老中、さらに老中首座を勤めた大名である。文政元年（一八一八）十一月、老中に昇進した大久保忠真は、江戸に赴任する途中、酒匂川の河原で、領内の働き者、親孝行者など十三名を表彰した。その中の一人が金次郎であった。これが忠真との初めての出会いであり、その後の金次郎の生き方に大きな影響を与えた出来事である。



大久保忠真

情弱な風俗の中で特に一段奇特なことであるからほめておく。役を勤めるものはその身を怠っては万事ゆきとどかないことにもなり、小作たちの手本にもなることであるから、いよいよ励まねばならない」であった。金次郎は「その身はいうまでもなく、村のためにもなり」という言葉に「自分のことのみ思つてやつてきたことが実は人のためになつていた」と気付いて、これから人生観が変わつた。金次郎三十一歳であつた。その後、忠真の厚い信頼を得て、桜町をはじめ六百余の農村の復興やいくつかの藩の財政再建に貢献した。

文政四年（一八二一）、忠真から桜町領の復興の委嘱を受けてから約十年経過した天保二年（一八三一）、日光参詣の帰途、結城に滞在していた忠真に、金次郎は桜町復興の次第を報告した。その時忠真は「そちのやり方は論語にある『徳を以つて徳に報いる（以德報徳）』ということ

であるな」と言われたと伝えられる。それから「報徳」の言葉が使われるようになり、金次郎は自分の仕法を「報徳」と呼ぶようになったといわれている。

家老服部家の家政立て直し、文政元年の表彰、年貢用の枡の改正等で忠真に認められ、桜町領の復興により忠真の金次郎への信頼はさらに高まつていった。

そして天保の大飢饉（天保四年〜天保十年）の最中の天保八年（一八三七）二月、忠真は桜町で指導中の金次郎を江戸に呼び寄せ、手元金千両を授け、小田原藩の米蔵を開いて餓死寸前の領民を救済するよう命じた。金次郎は夜行で小田原に着いたが、追っかけて来るはずの主席家老辻七郎右衛門が、忠真の病気が重くなつたため動けなくなつた。金次郎は忠真公の命令だと言つて米蔵を開くように伝えても重臣達は江戸からの命令がないから確認するまで待てと拒否を続けた。

「百姓達は米一粒食べられ



酒匂川河原の表彰の碑

ずにいる。お役の方々も何も食わずに評議すればすぐに決するだろう」との金次郎の言葉によつて、米蔵が開かれ、領内一六四ヶ村、四万三百九十人が救われた。金次郎が飢民救済中の三月に忠真公は病没した。

「ああ、わが道まさに窮厄に遭う。賢君、上にありてこそ富国安民の法を行ない得る。誰と共に民を安んずべきや」と嘆いたという。金次郎は忠真によつて活躍の場へと導かれたといえるだろう。

参考資料

「かいびやく」平成三年一月

◆企画ガイド◆

秀吉軍陣場から

北条大外郭を眺める

中野 茂夫

二月十六日(土) 晴れ。前日から天気と寒さが心配でしたが快晴。参加者九十六名が七班に分かれて箱根登山鉄道の箱根板橋駅を順次出発。

コースは細川忠興の富士山陣場佐野天守、宇喜多秀家陣場、水之尾毘沙門天、辻村農園、わんぱくランドで昼食し羽柴秀次秀勝陣場、黒田官兵衛陣場、蒲生氏郷陣場、土方陣場で解散の約五時間の行程でした。天候にも恵まれ各陣場からの眺望も良く特に細川忠興の富士山陣場は遺構も残っており参加者には好評でした。登り坂の多い行程でしたが、辻村農園の梅や綺麗な河津桜も見られ、お客様のアンケートに、お土産も付いてガイド案内も良かったと書いていただき安堵。企画ガイド初参加の方は二十三名、二回から五回目参加のお客様が大半で、協会企画ガイドの人気の高い事が判りました。

入会一年目の私にはお客様へのガイドは無いと思い企画に参加しましたが、九月二十二日に委員八名が集り打合せ開始。十月から二月まで、毎月時間をかけてのコース、時間設定、地図作成やお土産決めと手配、勉強会資料の作成等打合せや委員全員で歩いて現地コースの再確認と下見勉強会を経て私の参加も現実となり仕事帰りも家では自習を繰返して来ました。今回の企画ガイドの終了後には自分自身の達成感と安堵感で一杯でした。

◆企画ガイド◆

箱根八里「天下の嶮」を歩こう

甘酒茶屋〜箱根宿

神田 耕治

昨年、箱根八里(小田原宿から三島宿)が日本遺産に認定された。今回はシリーズの最終回。甘酒茶屋から箱根宿までだ。開催日は冬を避けて四月にしたが、お天気は雨や雪が降って、安定していない。四月十三日、当日の朝早く空を見上げると見事な快晴。お客様五

十人と我々は湯本から臨時便のバスで甘酒茶屋に到着した。江戸時代、旅人は畑宿から急坂を登りこの甘酒茶屋で甘酒を飲んで体を癒したそう。かねての打ち合わせのように、それぞれ分散してガイド開始。まず目にしたのが可憐な桜。下を向いて恥ずかしそうに咲いている。乙女桜(マメザクラ)だ。歩き始めた。箱根旧街道で一番長い石畳に到着。気を付けながら一歩一歩ゆっくり急坂を登って行った。お玉観音堂で休憩。関所破りで処刑された幼いお玉さんの霊に黙とうし、後ろを振り返ると、「二子山が二つもある! 四子山だ!」とおお客様の声。火山活動のなせる業だ。表二子に裏四子といわれている。

◆企画ガイド◆

石垣山「二夜城」太閤記

松下 信

予報では朝方まで雨、その後は曇りという事でしたが、先着順に出発する頃には、またぼつりぼつりと降り出しました。江戸城に運ぶ途中で置き去りになった石の説明の頃から、雨足が段々と強

くなり、石曳道に着く頃には本降りとなりましたが、お客様は熱心に耳を傾けてくれました。石丁場は、濡れて滑るため、現場は希望者のみの見学とさせて頂きました。霧も出始め石垣山にいた頃には山全体がモヤに包まれていました。リーダーが先に用意してくれたブルーシートが敷いてある東屋にて早めの食事をした後、一夜城のご案内をいたしました。東曲輪を抜けた馬屋曲輪にて、復元イメージ図をお見せしながら解説、井戸曲輪は滑りやすいため、上からの説明といたしました。

この企画のメインであるミニ講座は、雨が凌げる場所でも実施しました。他の班の方々もそれぞれ工夫をこらして、ミニ講座をされたとのことでした。

本城曲輪では、五十メートル先が霧で見えず、咲くシヤガの花が幻想的に浮かび上がって見えませんでした。大雨で視界も不良のため、午後の部は、中止する旨四十九名の参加者にお伝えした所、十四名の方が最後まで歩くことを希望されたため、先輩二人が早川駅までご案内いたしました。雨の中熱心にお聞き頂いたお客様には心より感謝いたします。

令和元年、新しい仲間を紹介します！《養成講座・7期生》

<p>1班</p>	 	<p>上田 信一 (うえだ しんいち)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 自転車に乗ること。架空の世界に遊ぶこと。 ② 本質的に怠惰だと思っていたので、養成講座修了は望外の出来事でした。これを踏み台に更なる高みをめざしたい。 <p>須藤 未来 (すとう みき)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 音楽鑑賞。楽器演奏。 ② 小田原の魅力をたくさんの方に伝えられるようになりたい。自分の出来る範囲で細く長く頑張ります。
<p>2班</p>	 	<p>今村 孝 (いまむら たかし)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① ウォーキング。写真撮影。海外旅行。手作り甲冑。 ② 小田原についての知識を教えて頂いたので、皆様にも知って頂きたい。知識は陳腐化するので常に新規化していきたい。 <p>大淵 敬三 (おおぶち けいそう)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 読書。ウォーキング。 ② お客様が、また「小田原」に来たいと思い、笑顔でお帰りいただけるガイドになるよう努力します。
<p>3班</p>	 	<p>勝俣 宏一 (かつまた ひろかず)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① ゴルフ。野菜作り。 ② 「いつも笑顔の応対」を心がけます。 <p>諸星 緑 (もろほし みどり)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 山登り。花のある風景の写真撮影。 ② ガイドをする事を通して、小田原の魅力を追究していきたい。ご指導のほどよろしくお願いします。
<p>4班</p>	 	<p>小菅 悟志 (こすげ さとし)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 城めぐり旅。鉄道旅。写真。 ② 郷土史の魅力をガイドを通じて、広く伝えていきたい。よろしくお願いします。 <p>渡辺 美地子 (わたなべ みちこ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 音楽鑑賞。おいしいもの探し。 ② 学ぶ機会をいただいた事に感謝し、楽しく取り組んでいきたい。

① 趣味・特技 ② 抱負

やさしいジオパークの話
最終回

身のまわりの ジオサイト

真木 和男

小田原早川上水の話

北条氏は、約五百年前に、城下町と宿場町の人たちのために早川から取水して日本最古と言われる水道設備を作った。足柄平野は、丹沢山系の侵食による土砂が酒匂川によって運ばれ、堆積してできている。大きな川であればあるほど大きな平野ができる。それでは小田原府内のことを考えてみよう、西に大きな早川と東に小さな山王川が流れている。小田原府内は、西に大きな堆積地と東に小さな堆積地ができた。西と東に高低差が生じている。小田原早川上水は西と東の高低差を利用して西から東へ自然に流れるようにした。

地球の気候変化は、二万年前の氷河期のピークから暖かくなり、六千年前が間氷期（暖かい時期）のピークであったと言われる。地球の気候は暖かくなれば極地の氷が解け、世界の海面は上がり海水が内陸まで入り込む。六千年前の砂丘は現在よりも内陸の方にあった。因みに羽根尾貝塚は隆起と気候変動により標高二十五メートル地点にある。北条氏は、五千五百年の長い月日で固まった微高地の砂丘跡を道路にして水道を通し、両側の家屋へ自然に配水できるようにした。水道設備は道路に風祭の溶結凝灰岩の石組を使い、道路から各家屋へ木管を使っている。

活断層と地層の話

山から浸食された土砂と小石は、川によって海へ運ばれる。海底の土石は、粒子の大きな小石、砂、泥の順に下から上へ堆積する。海底の地層は、上からの堆積の圧力とガラスの素のケイ素がセメントの役割をして固まり岩石に変わる。海底の泥岩や砂岩は、隆起また気候変動による海面の下降によって地上へ現れる。大磯から

前川にかけての活断層は海底にあると言われる。海底の地層は大きな地震のたびに活断層の働きで隆起する。羽根尾の橋中学や小竹の坂呂橋付近で見られる泥岩と砂岩の地層は、活断層に近い海岸側が上位に傾いている。因みに吾妻山や国府津山の山容は、海岸側が急坂で、内陸側が緩やかになっている。

フォッサ・マグナ要素の 植物の話

日本列島はユーラシア大陸との間に日本海が生まれて誕生した。その後、東日本は逆時計回りに、西日本は時計回りに回転した。日本海と太平洋は、日本列島の中央でつながり、フォッサ・マグナ（大きな溝）が生まれた。フォッサ・マグナは約五百万年前に火山活動などの働きで隆起して新しい陸地に生まれ変わった。フォッサ・マグナ要素の植物は、火山活動などの厳しい環境に耐えられるように、低い背丈、小さい花、ガレ場に育つ、山地の強風に耐える植物のみが生き残った。第三回目の写真は、箱根の強風に負けないサンショウバラを掲載した。

溶岩は冷えて固まるときに南北の地磁気を記憶する。岩石はどこへ移動しても生まれた時の磁北の方向を示す。日本海が誕生した時代の東日本と西日本の岩石を調べると、磁北を示すべき針が、東日本で北西を示し西日本で北東を示していることから、回転していることが分かった。

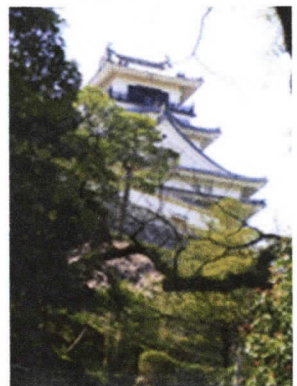
まとめ

私たちのジオサイトは、四回シリーズで示した場所の他に、六万六千年前の東京軽石の火砕流堆積物はJR線沿いの城址公園の側壁に、軽石と火砕流と火山灰が並んだ地層は五百羅漢玉宝寺の幼稚園のグラウンドに、川を流れて堆積した円礫の地層は飯泉橋から見える酒匂川の左岸に、フォッサ・マグナ要素の植物は箱根芦之湯の精進池のまわりに、溶結凝灰岩の採石場は風祭の荻窪用水の近くに見ることができ。私たちがいる場所がたくさんある。自分のジオサイトを自宅の周りで探してみてください。

No.	企画ガイド	日時・集合場所	参加費	コース
1	小田原まちあるき	① 6月21日(金) ② 8月16日(金) 9:30~12:00頃 小田原駅(JR改札前)	①・②共 700円	① 美術鑄物研究所~なりわいの魅力 ② 栄町周辺~お城
2	酒匂川・あじさいの里開成からアサヒビール工場見学	6月2日(日)約7km 9:00~12:00頃 小田急線 開成駅(東口)	1000円	開成駅~祖師堂跡~九十間堤防~あじさいの里・公園~瀬戸屋敷~岡野あじさい農道~花アオイ農道~アサヒビール工場
3	難攻不落の総構を歩く(海辺編)	6月16日(日)約6km 9:00~12:30頃 箱根登山鉄道 箱根板橋駅	1000円	箱根板橋駅~早川二重戸張~滄浪閣土壘~無量寺~なりわい交流館~北条稻荷~蓮上院土壘~井細田口~小田原駅東口
4	箱根・堂ヶ島溪谷ぐるっと散歩	6月20日(木)約3km 10:00~12:30頃 箱根登山鉄道 宮ノ下駅	700円	宮ノ下駅~熊野神社~デジャブ坂~イワタバコの群生~夢窓橋~桜橋~イワタバコ万年橋跡~箱根神社~宮ノ下駅
各コース参加申込は、実施日の45日前からです。申込み 電話番号：0465-22-8800 小田原ガイド協会HPでもご案内しています。				

三月以降の退会者
府川 喜代江さん
山口 正起さん
吉田 正道さん
宇佐美 弥生さん
ありがとうございました

小田原にも縁のある田中光顕、戦後の吉田茂首相等近代の節目に関する多くの人材を輩出してきた地域である。実はこれらの人々は高知城内で重要な役職に就いてなかった。しかし、高知城は町の中心に位置し存在感を放っている。城にほど近いところにある「ひろめ市場」は真に面白い。施設は、約六十店舗で名物の鯉のたたき、すし、刺身、餃子、枝豆、総菜類等々なんでも新鮮で美味しく、安い。酒は勿論地元銘酒が揃っている。東京の築地場外市場、横浜ならば戦後にぎわった根岸家(焼失)のようである。内部はいろいろの人が行き交い交流の場として機能しているように感じた。開店時間は八時から二三時までと区切られており健全である。高知城の周りでは曜日ごとに場所を変え、高知県内の農産物、海産物、各種特産品の露店が立ち掘り出し物もあるようだ。日曜日には約四百店が軒を連ね壮観である。私は、桂浜の龍馬像、ひろめ市場、本場よさこい祭り等の見学で度々高知を訪れているが、高知城はヨーロッパで見られる城郭都市の中心にある広場の役割を担っていると感じている。町と城が一体化した生活感溢れる高知城である。



リレーエッセー わたしの城旅④

まっこと明るい「高知城」
神野 功二

高知(土佐藩)は、幕末から明治維新にかけて大活躍した坂本龍馬、中岡慎太郎や岩崎弥太郎(三菱の創立者)維新以後も板垣退助

編集後記

「令和」最初のOGOをお届けします。次号より新しい連載も始まります。ご期待下さい。(M)

編集委員

磯崎知可子(委員長)
戸田博史 鈴木康子
中村哲夫 宮澤周子